

式 辞

寒さと暖かさが交互に行き交いながら、校内の多くの木々にも春の訪れが感じられる今日の佳き日に、保護者の皆様方のご臨席を賜り、「第三二回卒業証書授与式」を挙行できますことは、卒業生はもとより、私たち教職員にとりましてこの上ない喜びでございます。心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました二七五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。心からお祝い申し上げます。

本校の卒業生は皆さんを加え、八五六八名となりました。

さて、今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための分散登校やそれに伴う行事の中止や縮小など、制限のある学校生活を余儀なくされました。今日の卒業という晴れの日も、在校生をはじめとした多くの方々とお祝いしたいところですが、規模を縮小して行わなければならないことを大変残念に思います。それでもこれまで皆さんを励まし、支え、応援してくれた人たちの、皆さんをお祝いする気持ちに変わりはありません。在校生は教室でこの式に参加しています。

皆さんは入学以来、本校の校訓である「創造・至誠・健康」の言葉を大切に学校生活をおくってきました。

日々の授業をはじめ、高校生活の中で、多くの人と出会い、学校行事や部活動などをおして、友人の大切さや、友情のすばらしさを実感していることと思います。卒業を迎えた今、一人ひとりが大切な思い出を胸に刻んでいることと思います。

皆さんは、今日、鳩高からそれぞれの夢と希望を持って、新たな道へ歩み出していきます。しかし、皆さんを迎える今の社会は、未だコロナ禍が続く世界の中であり、急速な少子高齢化、グローバル化の進展、AIなど新技術の普及など大きな変革期にあります。このような中ですが、皆さんの若き力で、困難な課題にも果敢にチャレンジし、より良い社会の形成に尽力して欲しいと願うばかりです。

その社会へ歩み出すにあたり、皆さんに三つのことを申し上げます。

一つ目は、「絶えず学び続ける意欲と姿勢を持ち続けてほしい」ということです。

皆さんが活躍するこれからの時代は、グローバル化が非常に速いペースで進んでおり、国内だけに目を向けていれば生活が成り立つ時代では無くなってきています。今後もこの勢いは加速度的に増していくことが予想されます。これからのグローバル社会を支える人材は、自由度が高く、モビリティが高いことが必要です。

皆さんは、人生100年時代を生きることになります。今までの人生は、「教育、仕事、引退」という3ステージの生き方で問題はありませんでした。しかし、人生が長くなるこれからの時代は、生涯に二つもしくは三つのキャリアを持つようになり、まさしく3ステージの人生に代わってマルチステージの人生になると思われれます。

さらに、これからの数十年で、職業は大きく入れ替わるでしょう。古い職業が消滅し、新しい職業が出現してきます。

職業の入れ替わりは今後も続き、多くの職業がロボットと人工知能によって代替され

るか補完されると言われています。変化を恐れるのではなく、新しいことへの挑戦を楽しむ心、人と違うことへの挑戦を忘れない心を養うことが大切です。

皆さんは、これまでに、数多くの貴重な体験を重ねながら、時間を工夫して勉学に励んできました。これからは学び続けることを楽しむこと自体が、これからの生きる力になると思います。

二つ目は、「思いやりの心を身につけて欲しい」ということです。思いやりの心とは、他人を感じることでできる力です。

社会で生きていく上では、他人との関わりが極めて重要であることを忘れてはいけません。人というのは意外性に満ち、相互に影響を及ぼしながら変化していく、魅力的な存在です。だからこそ、人との関わりは何事にも代え難く、人生を豊かにするものです。

論語の中に、「人が一生おこなっていくべき大切なことを、一言で言うとそれは何ですか」と、弟子の子貢（しこう）が孔子（こうし）に質問したとき、孔子は「それは、如（じょ）、つまり思いやりである。この思いやりの気持ちで他人の心を推しはかり、自分がされたくないと思うことは、他人にも決してしないように心がけなければならない」と答えたそうです。

ぜひ、皆さんには、人との関わりを通じて、他人を感じる力を備えた、感性豊かな人となって欲しいと、切に望むところです。

そしてもうひとつ、「感謝する気持ち」を忘れないでほしいということですが。

人は決して一人では生きていけません。これからも多くの出会いがあり、交流があるはずです。その中で「感謝する気持ち」を持ち続けてほしいと思います。

まず今日、第一に感謝しなければならないのは、何と言っても、皆さんを本日まで育ててくれた保護者の方々です。皆さんの卒業を一番喜んでおられるはずです。もしかしたら、当たり前のように食事を作ってもらい、洗濯をしてもらい、朝も起こしてもらっていた人もいるのではないのでしょうか。

今日是非、このあとでも、家に帰ってからでもいいので「ありがとう」と言ってあげてください。少し恥ずかしければ、紙に「ありがとう」と書いてそっとテーブルに置いておくだけでも構いません。たったの五文字です。皆さんのこの一言がどんなに嬉しいか。救われた気持ちになるか。皆さんも人の親になったとき初めてわかります。必ず、実行してください。

結びになりますが、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、心からお祝いを申し上げます。皆様には、PTA会員として、本校の教育活動に対し、温かいご理解とお力添えをいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

最後に、皆さんが、鳩ヶ谷高校の卒業生としての自信と誇りを持って、次のステージで大きく羽ばたいていくことを期待します。

皆さんの益々の活躍を心から願ひまして式辞といたします。

令和四年三月十二日

埼玉県立鳩ヶ谷高等学校長
井上 一也